



2代目新校舎 (1962)



全国学校祭 仮装行列 (1964)



第3回学校祭 (1966)



高等学校総合体育大会 羽球 (バドミントン) 部 全国大会出場 (1969)



当時の生徒 (1972)



マラソン大会 (1972)

1960

### 伊福部昭氏作曲により校歌を制定

作詞は分校時代の阿部戸一教諭(後に屈足中学校校長)が手がけ、作曲は当時すでに全国的に著名な作曲家であった伊福部昭氏が手がけました。伊福部氏は、北海道大学の同級生で新得営林署に勤務していた後町三郎氏から校歌作曲の依頼を受け、その求めに応じました。

### 定時制から、全日制へ

人口の増加に伴い高校進学者も急激に増加し、全日制高校の必要性が強まりました。

1961年には全日制設置促進期成会が発足し、町はもとより道知事や道教育委員会にも強力な運動を続けました。町は将来の生徒数や通学区域などを懸念しましたが、石勝線の分岐点が新得町に決まったことから問題は解決されるとの見通しに至り、町議会、町教育委員会において設置が議決されました。翌年、北海道教育委員会の許可を受け、町民念願の全日制課程が設置。同時に定時制課程の募集停止も決まりました。

1962

1962

### 道立移管を目指し、2代目新校舎を建築

高校進学者が増加したことから、道立高校への移管を目指して、2代目の新校舎が建築されました。また、3年間の工事を終えた1965年には、待望の道立移管も決定されました。

### 校訓

一 公明正しく自己に厳しく  
一 より高き目標を琢磨すべし  
一 誠心以て精力を善用す

1985

### 過疎化の波… 間口減により2間口へ

一時は450人を超える生徒を擁した新得高校も過疎化の波には逆らえず、道教育委員会の配置計画に基づき1間口減となり、1学年2学級編成となりました。

1992

### 3代目となる現校舎が完成

1987年から進められてきた校舎改築陳情運動の成果もあり、2カ年計画で総事業費17億6500万円をかけて現在の校舎が建築されました。

1995

### 2間口維持へ向け、振興会が発足

地域に根ざした特色ある教育が推し進められる反面、入学希望者は減少を続け、北海道教育委員会から条件付き学級減の対象校に指定されます。

この指定を受け、2間口維持に向け町ぐるみで支援するため「新得高等学校振興会」が発足。魅力ある高校づくりにより出願者を増やすため、様々な支援策を実施しました。

そのかきもあり、以降5年間の入学者は基準の人数を超え、2間口は維持されました。

1960 (昭和35) 年

・校歌を制定

1962 (昭和37) 年

・全日制課程2間口の設置が決定、定時制課程の募集停止が決定

・全日制課程入学式  
・2代目新校舎が完成(宇新得西1線37番地)

1963 (昭和38) 年

・1間口増(1学年3学級)

1965 (昭和40) 年

・道立へ移管

1968 (昭和43) 年

・校訓を制定  
・屈足分校が閉校

1969 (昭和44) 年

・創立20周年記念式典開催

1979 (昭和54) 年

・創立30周年記念式典開催

1985 (昭和60) 年

・1間口減(1学年2学級)

1992 (平成4) 年

・3代目新校舎が完成(現校舎)

1993 (平成5) 年

・新制服を制定  
・新校舎落成記念・創立45周年記念式典開催

1995 (平成7) 年

・新得高校振興会が設立

1997 (平成9) 年

・北海道教育委員会「いきいきとした魅力ある高校づくり」指定校

1998 (平成10) 年

・創立50周年記念式典開催

### 特色ある教育の取り組み

・土曜講座(1996)  
そば講座やボランティア活動などを通じ町の自然や産業を学ぶ体験学習。

・進学講座(1996)  
希望する生徒に教諭が放課後に英語・数学・国語を指導。

・「北海道ネイチャーハイスクール」の指定(2004、2005)

環境教育の改善・充実について実践的な研究を行う奨励校として指定を受け、生徒が環境問題の調査・研究を行い、発表会を開催。

・2コース制の導入(2007)  
1クラスを2つに分け、「国立大学などを目指す生徒のコース」と「就職を目指す生徒のコース」に分けて指導する試み。



2002年に生徒がデザインし誕生した新得高校マスコットキャラクター「ローラ」



3年生集合写真 (2000)



土曜講座 (1999)



応援局 (1983)



第15回学校祭 (1978)